

親族間(直系卑属外)の株式譲渡による経営継承

経営継承までのプロセス

2001年

有限会社 妹背牛牧場を設立

2010年

後継者が有限会社 妹背牛牧場に就職



先代経営者／
伊藤 守さん
(70歳)の場合

飼養管理に長け、地域の中でも優れた経営者。仕事への厳しい姿勢からか後継者選びが難航。親族が就職したことで、経営継承の話がスムーズに進み始めた。

有限会社 妹背牛牧場

- 売上高: 100百万円(2018年)
- 経常利益: 18百万円
- 従業員数: 役員1名、アルバイト1名
- 事業地: 北海道妹背牛町
- 事業概要: 農産物の生産(酪農)
- 規模: 経産牛60頭、畑14ha、牧草地42ha

2017年

急遽、先代経営者より後継者としての打診があり、継承を決意

**かくして具体的に
継承の取組みがスタート!**

資産の継承等は顧問税理士に相談
経営権を譲渡することから検討開始

2017年

株式の売買について、顧問税理士に相談

2018年4月

株式譲渡により継承

親から娘婿に継承（親族内継承・法人）

継承内訳

人（経営権）の継承

- 後継者と先代経営者の間で、株式譲渡契約を締結。

資産（モノ・カネ）の継承

- 制度資金を活用し、株式購入資金を調達。
- 資産の価格の算定は顧問税理士が関与。
- 先代経営者が法人に貸与していた農地等は、使用貸借（無償）。

知的資産の継承

- 先代経営者のもとで6年間勤務。
- 継承後も、技術面に関して随時指導を受けている。

継承後の経営発展と今後の取組み

後継者／（有）妹背牛牧場 代表取締役
佐々木 亮太さん（39歳）

継承年月…2018年4月

売上高…109百万円（2020年）

経常利益…3百万円

従業員数…役員1名、正社員3名、アルバイト1名

事業概要…農産物の生産（酪農）

規模…経産牛64頭、畑14ha、牧草地42ha

『牛と共に歩む』がコンセプト。牛の健康とストレスフリーの追及、コミュニケーションを大切に信頼関係を構築する等、牛との関わり方に重点を置く。牛を主導とした日常、牛に優しい環境作りを心掛け、長命連産を目標に定めた。

牛主導で搾乳できる自動搾乳ロボットや餌寄せロボットなども導入。牛のストレス軽減を図り、今後も健康的な生乳生産を行っていく。



👉 次ページにて継承ポイントを詳しく解説

(有)妹背牛牧場のケースから学ぶ経営継承あるある

登場人物



娘：佐々木牧子



先代経営者：伊藤守



後継者(娘婿)：佐々木亮太

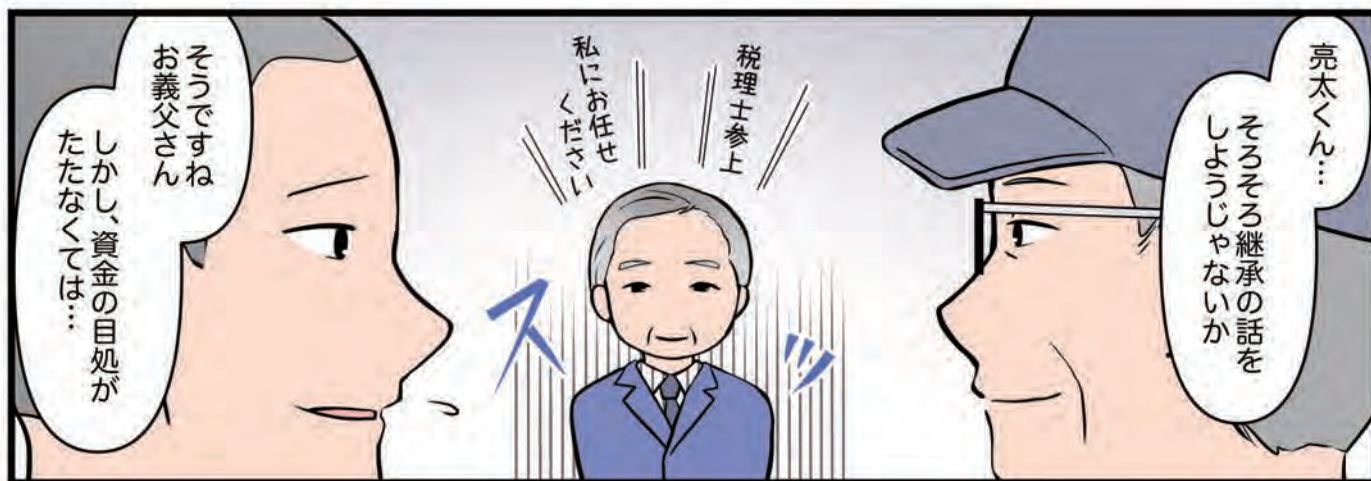


グッドポイント①

飼養管理に長け、自分にも他人にも厳しかった先代経営者。他のやり方の導入には慎重で、後継者候補を外部から複数回招へいしたものの長続きしなかった。娘婿である親族が就農したことで、経営継承に向けて動き出すことができた。

親族だから できた 引継ぎ





グッドポイント②

後継者は、スーパー資金を借り入れ、株式取得費用を支払った。就農直後は、融資を受けるための実績づくりは難しいことが多い。しかし、**税理士、JAと日**

制度資金の活用がポイント!!



本政策金融公庫が連携して支援することにより、今までの法人の健全な経営と今後の後継者の事業性評価により、無担保での金融支援を受けた。



ケアポイント

今回のケースでは、経営継承の着手から、比較的早い段階で株式や資産の売買を進めている。今後先代経営者からの借入金などを法人から支出するため法人の負担が大きくなることが予想される。また、先代経営者の資産が膨らむことで、相続人に対する相続税負担も想定される。資産の継承方法は、慎重かつ丁寧にする必要がある。

慎重かつ丁寧が大事

